土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　一級河川　太田川水系　根谷川支川９　通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

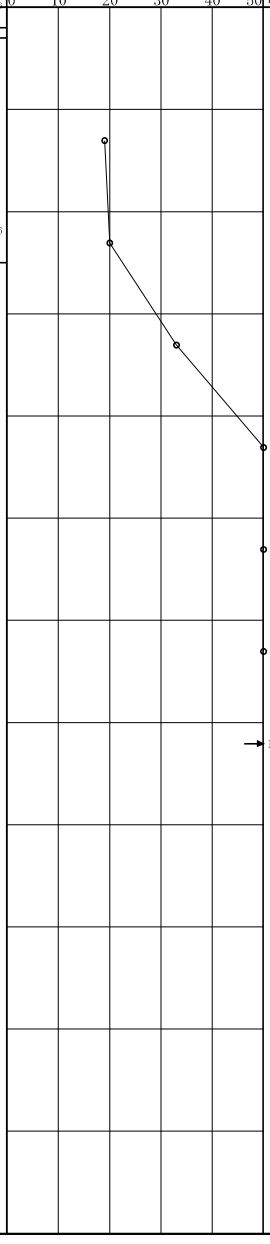
調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.2	**調査位置**	広島県広島市安佐北区可部町上町屋　地内			**北緯**	34° 32′ 55.2878″
発注機関	広島県西部建設事務所			**調査期間**	2023年　6月　5日 ～ 2023年　6月　6日	**東経**	132° 31′ 50.4220″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 93.03m	**角度**	180°（上）　90°　0°（下）	**方位**	北 0°　東 90°　南 180°　西 270°	**地盤勾配**	水平 0°　鉛直 90°
総削孔長	7.00m	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機　DO-C48	**エンジン**	ヤンマー　NFD-10	**ポンプ** 東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	92.23	0.80		粘土混じり砂		暗灰褐			第四紀	0.2m付近までは表土で細粒分に富む。以深、粘土と中粗砂が均等に混じる。旧耕作土とみられる。微量の細礫～中礫を含有している。	06/05 0.00
1	91.68	1.35		粘土質砂		暗褐	rd2			砂質土であることに間違いないが、かなり粘土分に富んでいる。砂分は細中砂が主体をなす。高含水である。本層の成因は明確でない。	
2	90.48	2.55		礫混じり砂		淡灰	rd3			礫分はφ30～50mmの大径のものと細礫に二分される。全体にマサ土質であり、砂の粒度分布は悪くない。少量の細粒分を伴い、コアは円形形状を維持する。1mの貫入試験には礫打ちが疑われる。土石流堆積物に相当する。	06/06 2.50
3	89.03	4.00		強風化花崗岩		白灰 橙灰			白亜紀	完晶質粗粒な風化岩である。礫混じり砂状コアを呈す。コア試料は指圧で崩れ、指先で揉むことで砂状まで粉砕できる。3.55m以深、顕著に色調変化し、酸化変色とみられる。貫入試料はほぼ乾燥状態にある。【DM級岩盤、締まった砂質土に相当する】	
4 5 6	86.03	7.00		風化花崗岩		褐灰 橙灰 緑青灰 橙灰				固さは増しているが、岩芯風化の見掛け程度に明確な差はない。コアは砂状を主体とするも、粉砕した際に残る礫分は、少し増した感がある。全体に橙色を帯びた酸化変色を伴った区間が多いが、5.40～6.65mは特徴的に緑青色を帯びる。同区間には暗色の岩片を含有し、暗色包有物または泥質な捕獲岩を含むための色調変化とみられる。孔底までコアの固さに変化は感じられない。【DH級岩盤、軟岩Ⅰに相当する】	
7 8 9 10 11											

標準貫入試験

深度－N値図



N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
19	1.15～1.45	1	4	14	19/300		
20	2.15～2.45	7	6	7	20/300		
33	3.15～3.45	8	12	13	33/300		
50	4.15～4.45	15	17	18	50/300	300	
50	5.15～5.45	16	17	17	50/300	300	
50	6.15～6.45	12	18	20	50/300	300	
150	7.15～7.25	50			50/100	100	

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

原位置試験

室内試験	削孔月日
	6/5
	6/6